

三行詩 ～家族のきずな・命の大切さ～ 《3年生その2》

私の姉

理不尽でわがままだけど 一番私を理解している
大嫌いで 大好きな たった一人の私の姉

疲れて帰ってくるお母さんのために
頑張る私
お母さんの「ありがとう」が聞きたくて

うるさいなあと思っていたが
休校で気づく
うるさいではなく楽しいだった

毎日毎日学校の日々で「行きたくない」
でも
毎日毎日休日の日々は「はよ行きたい」

けんかした次の日の朝も
「おはよう」の一言忘れずに
まほうの言葉

楽しいね校外学習のバーベキュー
初めて見る
友達の素顔

「おはよう」と目ざめる朝
まぶしい日差しとご飯のいいにおい
今日も元気な一日を

1週間ぶりに
「ばあちゃん家行くよー」と母が言う
「ええーまた？」とわたし
ほんとは行きたくてしかたがないくせに

人間は成長すると言うが
いつまでも変わらない家族
これからも変わらずよろしく

我が家にルールはないけれど
暗黙の了解
「母を怒らせるな 夕ご飯がどうなっても知らないぞ」

母は料理、洗濯、掃除、家族のためにやっていて
父は会社で家族のために働いている
恥ずかしくて言えないけれど いつも本当にありがとう

「おやすみ 大好きだよ」
いつも言ってるまほうの言葉
けんかをしてても それを言う
明日も家族と笑えるように

いいにおい
受験勉強する私へ
『母からのエール』

給食中には言葉がない
人との間にはいつも大きい空気 常に口元に一枚の紙
改めて分かる “日常の大切さ” 一人一人理解すべき “当たり前”の尊さ”

今後歴史に深く刻まれるであろう
この時代に生きている私は
ほんの小さな幸せでも見つけられるようになった気がする